DJ-P113R セットモードについて

DJ-P113R 特定小電力中継器は、各種機能を用途に合わせてより使いやすくするためにカスタマイズすることができます。本書では製品に付属の取扱説明書には敢えて記載していない、中継器・無線機の基本設定の詳細をご説明します。

セットモードの操作

・キーロックがかかっていればかけたときと同じ操作で解除（通常の簡易ロックはFUNC長押し）します。
・[FUNC]キーを押したまま[SET]キーを押すとローマ字表示が出て、[SET]キーを押すごとにメニュー項目が切り替わります。ローマ字表示に変わったら指を離しても構いません。FUNCキーだけを必要以上に長く押しているとキーロックが掛かるのでご注意ください。(同じ長押しで解除できます)
・[▽][△]キーでメニュー内の設定値を選択します。
・[SET]キーを押すと次のメニュー、[FUNC]キーを押すと前のメニューが選べます。
・設定が済んだら[PTT]キーを押します。運用画面に戻ります。機能によってはオン状態を示すアイコンが表示されます。

中継器セットモード一覧

中継器モード(通話モードr1～r2)時にカスタマイズできる項目です。

No.	機能	セットモード	選択項目	初期値
1	中継親機チャンネル周波数帯	b rPt-CH	b/A	b
2	中継アラーム	oFF ALm	on/oFF	oFF
3	中継ハングアップ	0 HunGuP	0/05/1/2	0
4	中継自動接続手順	on2 Auto	oFF/on1/on2	on2
5	連結中継アクセス速度	noL LnK-SP	noL/FSt	noL
6	連結中継ビーコン時間	10 LnK-bc	oFF/5～60(秒)	10

無線機セットモード一覧

無線機モード(通話モード1～8)時にカスタマイズできる項目です。

No.	機能	セットモード	選択項目	初期値
1	中継子機チャンネル周波数帯	A Unt-CH	A/b	A
2	コンパンダー	At ComPnd	At/on/oFF	At
3	秘話	oFF ScrbLE	on/oFF	oFF
4	ベル	oFF bEEL	on/oFF	oFF
5	ランプ	5 LAmP	oFF/5/on	5
6	LED	on LEd	on/oFF	on
7	PTTホールド	At PttHLd	At/oFF/on	At
8	送信出力	Pow-At	At/Hi/Lo	At
9	VOX	oFF vo	oFF/Lo/Hi	oFF
10	操作音量	3 Sd-voL	0～5	3
11	サウンド	bp Sound	oFF/bp/Gdc/ALL	bp
12	エンドピー	oFF EndP	oFF/on/PP	oFF
13	PTTオフ	on Ptt	on/oFF	on
14	コールバック	oFF CALLb	on/oFF	oFF
15	SETキー割り当て	ACH SEt-bt	ACH/bCH/EG/Scn	ACH
16	外部音量変更	EvoL-L	L/H	L

※ 次ページの文中のローマ字はディスプレイの表示、「設定値」は変更や設定ができる内容、「初期値」は出荷時の設定です。

中継器セットモード

1: 中継親機チャンネル周波数帯「rPt-CH」

設定値 b / A（初期値 b）

半複信中継器(通話モード r1)のときに送受信する周波数帯を入れ替えます。無線のことをよく知る管理者が、特定の目的をもって変更するためのものです。弊社製の中継器、トランシーバーを通常設定でお使いになるときは変更しないでください。標準で自動的に適切な組み合わせになります。弊社製品の中にはこの変更に対応できない機種もあります。

A に変更すると半複信中継器のとき、ディスプレイ左上の「r1b」 表示が「r1A」表示になります。使用する子機の周波数帯設定は全て b 側にします。あまり必要性が無いので、弊社製の機種の多くはこの変更に対応させていません。

2: 中継アラーム「ALm」

設定値 oFF / on（初期値 oFF）

半複信中継器(通話モード r1)で中継動作の終了をアラーム音でお知らせします。アラーム音が鳴っている間に信号を受信すると中継動作を継続します。中継器が初期状態に戻るまでの時間が長くなり、通話がスムーズに感じられる反面、音が煩わしく感じられることもあり、実験してから好みに合わせて設定してください。

3: 中継ハングアップ「HunGuP」

設定値 0 / 0.5 / 1 / 2 秒（初期値 0）

半複信中継器(通話モード r1)で受信信号が途切れても一定時間送信を継続する機能です。中継器が初期状態に戻るまでの時間が長くなり、スムーズに感じられることがあります。実験してから好みに合わせて設定してください。

4: 中継自動接続手順「Auto」

設定値 oFF / on1 / on2（初期値 on2）

半複信中継器(通話モード r1)、半複信中継子機(通話モード 5)で中継動作自動接続手順（Auto Kerchunk）を解除する機能です。接続タイミングの異なる旧製品や他社製中継器へのアクセスに有効な場合があります。通常は初期状態の「on2」でお使いください。

5: 連結中継アクセス速度「LnK-SP」

設定値 noL / FSt（初期値 noL）

※連結中継に使用するすべての中継器と子機を同じ設定値 にしてください。

連結中継器(通話モード r2)、連結中継子機(通話モード 6)で連結中継の通話開始（応答）のときのアクセス速度を変更できます。初期値の「noL（ 通常 ）」は通信精度を優先するためアクセスに時間がかかり、長めの頭切れが発生します。「FSt（高速)」に切り替えると通信速度を優先するようになり、この頭切れを緩和することができます。ただし、別の電波やノイズなどからの干渉を受けやすくなり、混信の多い環境では最寄りの中継器を誤認することがあります。実際の使用環境でしばらくテスト運用して、使いやすいほうをお選びください。

6: 連結中継ビーコン時間「LnK-bc」

設定値 oFF ／5～60 秒（初期値 10 秒）

【間隔設定】

無線連結中継器は、子機に最寄りの中継器を判定させるのに、10 秒ごとに 1 回、約 1 秒間ビーコン（目印の信号）を送信します。そのビーコンを送信しているときに通話が始まるとキャリアセンスが働き、しばらく通話できないことから通話の「頭切れ」が発生します。そのビーコン送信の間隔を長くすると頭切れの発生頻度を少なくできますが、子機が最寄りの中継器を探しだす時間も長くなります。逆にビーコン間隔を短くすると中継器を探しだす時間は速くなりますが、頭切れの発生頻度が多くなってしまいます。

使用者の通話頻度や移動頻度にあわせて調整してください。

【固定アクセス】

例えばすべてのユーザーに最寄りの中継器が決まっていて、他の中継器にはめったにアクセスする必要がない（ユーザーが中継機の間を移動することがほとんどない）環境では、最寄りの中継器を自動で探す必要がありません。手動で中継器を選ぶと、前述のような頭切れが無く、アクセス速度の改善が得られ、使い勝手が向上します。

連結中継器でこの項目を「OFF」にしたあと、子機の中継器自動スキャン設定を OFF にして最寄りの中継器番号に合わせます。　DJ-P113R では[SET]キーを 1 回押すと、ディスプレイの「LnK」とチャンネルグループの間の点滅している「.(ドット)」が点灯に変わります。その状態で[SET]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押して中継器の番号 1～4 を選びます。移動したときは再度[SET]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押して、そのエリアに最寄りの中継器の番号を手動で選びます。

※連結中継に使用するすべての中継器と子機を同じ設定値にしてください。

※連結中継器子機はバッテリーセーブを設定していても、ビーコン間隔時間によってバッテリーの減り方が変わります。ビーコン間隔時間が長いとバッテリーの消耗が少なく、短いと多くなります。ビーコン時間を 5 秒、またはビーコン機能を OFF にした場合、バッテリーセーブが働かないためバッテリーの減りが一番早くなります。

無線機セットモード

1: 中継子機チャンネル周波数帯「Unt-CH」

設定値 A / b（初期値 A）

半複信中継器(通話モード r1)のときに送受信する周波数帯を入れ替えます。無線のことをよく知る管理者が、特定の目的をもって変更するためのものです。弊社製の中継器、トランシーバーを通常設定でお使いになるときは変更しないでください。標準で自動的に適切な組み合わせになります。弊社製品の中にはこの変更に対応できない機種もあります。

b に変更すると半複信中継器のとき、ディスプレイ左上の「５A」 表示が「5b」表示になります。使用する中継器の周波数帯設定は A 側にします。あまり必要性が無いので、弊社製のトランシーバーの多くはこの変更に対応させていません。

2: コンパンダー機能「CmP」

設定値 At / oFF / on（初期値 At）　※ON 時のアイコン：「♫」

コンパンダー機能を ON に設定すると、通話中、音声が無いときに「サー」と聞こえるかすかなバックノイズを低減することができます。

※コンパンダー機能のないトランシーバーと通話する場合には必ず OFF にしてください。逆に音質が悪くなることがあります。

※他社製の特定小電力トランシーバーでもコンパンダー対応機であれば ON でお使いになれます。

※At（オート設定）は、3 者同時通話(通話モード 3)にするとコンパンダーが自動的に動作します。
弊社製 3 者同時通話搭載機（DJ-P300、DJ-PHM20）の初期設定と同じです。

※4 者同時通話(通話モード 4)では、原理上コンパンダーが必須のため自動で、設定オフは反映されません。

※中継通話で子機のコンパンダーを ON にしていた場合、中継器のコンパンダーは OFF でも子機間の通話は問題ありませんが、DJ-P113R を「割り込み送信」させるようなときは音質が悪くなることがあるため、子機と本機の中継時のコンパンダー設定は同じにしてください。

3: 秘話機能「ScrbLE」

設定値 oFF / on（初期値 oFF）※ON 時の表示：「秘話」

ONにすると、設定していないトランシーバーで受信したときに「モガモガ」と濁った音になり、通話内容が聴き取れなくなります。同じ機能（スクランブルとも言います）を搭載した弊社製トランシーバーであれば、機種が違っても通話できます。

※本機能のセキュリティレベルは非常に低いものです。秘密の通信に使えるレベルのものではありません。秘話設定の声に違和感があるときは、拡張セットモードで秘話周波数設定が変更されている可能性があります。拡張セットモードの説明は本書と同じダウンロードコーナーでご覧になれます。

※弊社の旧機種や他社製品の秘話と混用した時は通話内容が聞き取りづらくなったり使えなくなったりすることがあります。

※中継通話、グループトークでもお使いになれますが、音質が変わることがあります。

※中継通話で子機の秘話をONにしていた場合、中継器の秘話設定はOFFでも子機間の通話は問題ありませんが、DJ-P113Rを「割り込み送信」させるようなときは音質が悪くなることがあるため、子機と本機の中継時の秘話設定は同じにしてください。

4: ベル機能「bELL」

設定値 oFF / on（初期値oFF）※ON時のアイコン：「」

呼び出されたことをベルアイコン表示とベル音でお知らせします。

※着信すると10秒間ベル音が鳴ります。何かキー操作をすると止まります。キー操作するまでベルアイコンが点滅して、着信があったことをお知らせします。

※一度お知らせしたら、待ち受け状態が約10 秒以上続くまで動作しません。（通話中、受信のたびにベルがいちいち鳴るとうるさいためです。）

※グループトーク設定時は、グループ番号が合わない信号を受信しても動作しません。

5: 液晶ランプ機能「LAmP」

設定値 oFF / 5 秒 / on（初期値5 秒）

液晶ディスプレイの照明を点灯させる機能です。初期状態では「5」秒に設定されており、キー操作（[PTT]キー以外）をすると自動的に5 秒間照明が点灯します。

※ディスプレイ照明をON（常時点灯）に設定すると、オプションバッテリー使用時、電池の減りがとても早くなります。ACアダプター使用時以外はONにしないでください。

6: LEDランプ機能「LEd」

設定値 oFF / on（初期値ON）

動作状態を表示するLEDランプ（青色：待ち受け、緑色：受信、赤色：送信）のON/OFFを選択できます。無線機と中継器モードすべてに反映されます。

※液晶ランプと違い明るさを抑えているため、ONに設定していても電池の減り方にあまり影響はありませんが、OFFにするとわずかですが電池の持ちは良くなります。

※一旦設定が済んだら動作状況を見る必要が無い中継器モードではオフにしても良いですが、トランシーバーとして使うときや、設定を変更するときは点灯するほうが操作性は良くなります。

7: PTTホールド機能「PttHLd」

設定値 oFF / on / At（初期値At）

[PTT]キーを一度押すと送信状態を保持、もう一度[PTT]キーを押すと受信状態になります。送信中[PTT]キーを押さなくて良いハンズフリー状態にできます。一部のイヤホンマイク・ヘッドセット系アクセサリーで[PTT]キーロック機能が無いものをお使いになるときにロック代わりに使うこともできます。

※初期値の At（オート設定）では、同時通話(通話モード 2)、3 者同時通話(通話モード 3)、4 者同時通話(通話モード 4)で PTT ホールドが自動的に ON になります。別売マイクの PTT キーロック（ボタンをスライドして固定）を使うと、そちらの PTT 操作を優先します。

※PTT ホールド機能は一部のオプションマイクではお使いになれません。取扱説明書のオプション一覧表をご覧ください。

8: 送信出力設定「PwL」

設定値 Lo / Hi / At（初期値 At）※Lo 時のアイコン：「.（ドット）」マーク

送信出力を変更できます。

Hi ： 10mW 出力
通常の設定です。理由が無い限り変えないでください。設定を変えてもバッテリーの持ちは大きく変わりません。

Lo ： 1mW 出力
b12～b29 チャンネルでは 3 分タイムアウトの制限を受けず、連続送信ができるようになります。ガイドシステムのような送信し続ける必要が有る用途向けですが、通話距離は数十メートル程度まで狭くなります。他人に通話を聞かれるリスクが低くなるので、常に至近距離で通話するときにもメリットがあります。

※At（オート設定）では、同時通話(通話モード 2)の b12～b29 チャンネルに設定すると自動的に 1mW 出力になり、3 分タイムアウトの制限を受けずに通話できます。3 者同時通話(通話モード 3)、4 者同時通話(通話モード 4)も b12～b29 チャンネルを使用しているため、どのチャンネルグループを選んでも自動的に 1mW 出力になり、3 分タイムアウトの制限を受けずに通話できます。

9: VOX 機能「vo」

設定値 oFF / Lo / Hi（初期値 oFF）※ON 時のアイコン：「☆」

「話すと送信、黙ると受信」のハンズフリー通話ができます。

Lo ： VOX 感度 小（大きめの声でないと送信しません。周りがうるさく、黙っていても送信してしまうようなときにお試しください）

Hi ： VOX 感度 大（小さめの声でも送信します。周りが比較的静かなときはこちらをお試しください）

※弊社純正品でも一部のオプションマイクは対応しません。取扱説明書のオプション一覧表をご覧ください。

※VOX 感度を「Lo」に設定しても送信してしまうような騒音の大きい場所では VOX 機能はお使いになれません。

※声を感知してから送信を始めるまでに多少時間がかかるため、音声の始めが途切れて聞こえる場合があります。「了解です、～～～」「はい、～～～」など、用件に入るまでに頭切れしても差し支えない言葉を挟んで話し始めると通話しやすくなります。

10: 操作音量「Sd-voL」

設定値 0 ～ 5（初期値 3）

本体から鳴る操作音の音量を変更することができます。数値を大きくすると音量が大きくなり、「0」に設定するとすべての操作音（キー操作音、各種アラーム音、ベル音など）が鳴らなくなります。

※イヤホンを使用した状態でビープ音量を 5 に設定すると、大きな音で耳を痛める可能性がありますのでご注意ください。

11: サウンド「Sound」

設定値 oFF / bP / Gdc / ALL（初期値 bP）

本体から鳴る操作音をビープ音やガイダンス音声（設定内容や状態を音声でお知らせ）に変更することができます。

oFF ： 操作音は鳴りません
bP ： 操作音がビープ音になります。
Gdc ： 操作音がガイダンス音声になります。
ALL ： 操作音がビープ音とガイダンス音声になります。

12：エンドピー機能「EndP」

設定値 oFF / on / PP（初期値 oFF）

エンドピーは送信が終わったことをビープ音で相手に伝える機能です。受信信号の強度(レベル)に合わせてエンドピーを鳴らす「エンドピピ」機能はアルインコの特許で、テールノイズキャンセラーまたはグループトークを設定した弊社製トランシーバーからの信号のみ動作を保証しています。

ON ： エンドピー
PTT キーを離したときに「ピッ」と鳴って送信が終わったことを相手に伝えます。「エンドピー」は送信側で鳴るので、他人に音を聞かせたくないときは自分の設定をオフにします。

PP ： エンドピピ
受信終了時に、強いレベルの信号を受信したときは「ピッ」、少し弱いレベルの信号を受信したときは「ピピッ」、非常に弱いレベルの信号を受信したときは「ピピピッ」と鳴ります。「エンドピピ」は受信側で鳴るので、自分がピピ音を聞きたくないときは設定をオフにします。

※ここの設定は連結中継には反映されません。連結中継時のアクセス音、エンドピー設定は拡張セットモードで別途設定できます。

13：PTT オン／オフ機能「Ptt」

設定値 oFF / on（初期値 on）

送信を禁止する機能です。OFF に設定後 PTT キーを押すと【Ptt oFF】と表示され、送信できなくなります。ユーザーグループの中に「連絡を聞くだけで、返事はしなくてよい」メンバーがいるとき等に使います。

メモ）この「ラジオ」のような無線機は無線通信の用語で「受令機」と呼ばれています。受信専用のモニターとして使うとき、誤って送信しないようロックを掛けておくことをお勧めします。

14：コールバック機能「CALLb」

設定値 oFF / on（初期値 oFF）

コールバック機能を ON に設定すると、イヤホン（イヤホンマイク）使用時に送信中の自分の声をモニターすることができます。「話したつもりだったが、送信できていなかった」といった[PTT]キーの操作ミスを防げます。

※DJ-P113R 本体内蔵のマイクやスピーカーマイクではハウリングを起こすので使えません。

15：SET キー割り当て「SEt-bt」

設定値 ACH / bCH / EG / Scn（初期値 ACH）

[SET]キーを長押ししたときの動作を下記の機能の一つに割り当てることができます。1 回押しや、押しながら起動のしたときの動作は変わりません。

ACH ： デュアルオペレーション(モード 7)のときの A(メイン)チャンネルを登録します。
bCH ： デュアルオペレーション(モード 7)のときの b(サブ)チャンネルを登録します。
EG ： 緊急通報を使うときに選択します。
Scn ： チャンネルスキャンを使うときに選択します。
上記の内容や操作は「DJ-P113R_補足説明書」で詳しく説明しています。
※[SET]キーを長押ししたときの動作が有効になる通話モード：
・「EG」：モード 1/モード 5/モード 7
・「ACH」「bCH」「Scn」：モード 1/モード 5

16: 外部音量変更「EvoL」

設定値 L / H（初期値L）

外部出力端子へスピーカーマイクなどを接続するとき、H 設定にすると音量を上げることができます。
イヤホンやイヤホンマイクでボリュームを上げすぎると耳を傷めることがあるので切り替えられるようになっています。初期値はイヤホン用のL（小さい音量）です。

※イヤホン、ヘッドセットを使用した状態でのボリューム変更には十分にご注意ください。
　この項目を変更して音量を上げると、大きな音で耳を痛める可能性がありますのでご注意ください。

以上

アルインコ(株) 電子事業部

DJ-P113R セットモードの拡張について

DJ-P113R 特定小電力中継器には、環境や特定のニーズによってカスタマイズできると便利な項目を「拡張セットモード」に採用しています。一度設定したら変えることが少なく、「故障かな？」と思うような動作をする項目もあるので、敢えて通常のセットモードの操作とは別にして、ここでご説明します。

内容を良くご理解いただいたうえで操作していただきたいので、操作方法は敢えて最後に記載しました。管理者が行った設定をユーザーが誤ってリセットしないよう、拡張メニューは設定変更後に再び表示を隠すことができ、通常のリセット操作では初期化されないようになっています。

全セットモード一覧

拡張操作をすると、すべての通話モードですべてのセットモード項目が操作できるようになります。メニュー番号 1～22 までは通常セットモードです。ここでは説明していません。通常セットモードの詳細は別紙「DJ-P113R セットモード詳細説明書」をご参照ください。

No.	機能	セットモード	選択項目	初期値	種類	詳細内容
1	中継親機チャンネル周波数帯	b rPt-CH	b/A	b	通常セットモード（中継器）	セットモード説明書
2	中継アラーム	oFF ALm	on/oFF	oFF		
3	中継ハングアップ	0 HunGuP	0/05/1/2	0		
4	中継自動接続手順	on2 Auto	oFF/on1/on2	on2		
5	連結中継アクセス速度	noL LnK-SP	noL/FSt	noL		
6	連結中継ビーコン時間	10 LnK-bc	oFF/5～60(秒)	10		
7	中継子機チャンネル周波数帯	A Unt-CH	A/b	A	通常セットモード（無線機）	
8	コンパンダー	At ComPnd	At/on/oFF	At		
9	秘話	oFF ScrbLE	on/oFF	oFF		
10	ベル	oFF bEEL	on/oFF	oFF		
11	ランプ	5 LAmP	oFF/5/on	5		
12	LED	on LEd	on/oFF	on		
13	PTT ホールド	At PttHLd	At/oFF/on	At		
14	送信出力	Pow-At	At/Hi/Lo	At		
15	VOX	oFF vo	oFF/Lo/Hi	oFF		
16	操作音量	3 Sd-voL	0～5	3		
17	サウンド	bp Sound	oFF/bp/Gdc/ALL	bp		
18	エンドピー	oFF EndP	oFF/on/PP	oFF		
19	PTT オフ	on Ptt	on/oFF	on		
20	コールバック	oFF CALLb	on/oFF	oFF		
21	SET キー割り当て	ACH SEt-bt	ACH/bCH/EG/Scn	ACH		
22	外部音量変更	EvoL-L	L/H	L		
23	中継器バッテリーセーブ	oFF rPt-bS	on/oFF	oFF	拡張セットモード	本書
24	中継器他社互換	50 rPt-ot	0～100	50		
25	連結中継スタート・エンドピー	S-E LnK-bP	oFF/St/End/S-E	S-E		
26	同時通話ループ	oFF AFLooP	on/oFF	oFF		
27	スケルチレベル	SqL 3	0～5	3		
28	キーロック時間	Loc 2	1～3	2		
29	電池電圧参照	〇.〇〇	-	-		
30	マイクゲイン	4 m-GAin	1～7	4		
31	バッテリーセーブ	on bS	oFF/on	on		
32	デュアルオペレーション再開時間	5 dUAL-t	1～5(秒)	5		
33	オプション使用時の PTT/マイク設定	ALL micPTT	ALL/oUt/OFF/St1～St5/no	ALL		
34	オプション使用時のスピーカー設定	oUt SPKoPE	oUt/inS/ALL	oUt		
35	イヤホン断線検知	on EAr-C	on/oFF	on		
36	緊急警報鳴動時間	10 EmG-t	10～60	10		
37	秘話周波数	34 SCr-Fq	27～34(×0.1KHz)	34		
38	秘話エンファシス	on EmPHA	on/oFF	on		
39	グループ選択	ton GroUP	ton/Cd1/Cd2	ton		
40	減電池アラーム（アラーム間隔）	oFF bAtt-C	oFF/5～60(秒)	oFF		
41	VOX ディレイ時間	10 vod-t	1～30（×0.1sec)	10		
42	チャンネル表示	AL CHdiSP	AL/noL/oFF	AL		
43	グループトーク判別精度	2 mG-ton	1～5	2		
44	マイク AGC 切り替え	SL AGC	oFF/SL/FS	SL		
45	AGC ターゲットレベル調整	06 AGC-tG	03～24(×-1dB、 3dB Step)	6		
46	テールノイズキャンセル	on tAiLnC	on/oFF	on		
47	減電池スリープ	on bt-SLP	on/oFF	on		
48	お願いコール	oFF PLSCAL	oFF/on/1/5/10/onC/1C/5C/10C	oFF		
49	特殊キーロック	oFF Loc-SP	on/oFF	oFF		

23: 中継器バッテリーセーブ「rPt-bS」
設定値 oFF / on (初期値 oFF)

半複信中継器(通話モード r1)の専用バッテリーセーブ機能です。中継動作の反応が遅くなり、頭切れの原因にもなるので通常は初期値の OFF でお使いください。電源の無い現場で仮設使用するなど、バッテリーの消費を極力抑えたいときだけ ON 設定をお試しください。

24: 中継器他社互換「rPt-ot」
設定値 0～100(初期値 50)

DJ-P113R の半複信中継器(通話モード r1)を中継器として使うとき、旧製品や他社製品ではうまく中継動作をしない場合があります。アクセス手順のタイミングが原因の場合、この設定を変えると改善することがあります。通常セットモードの「No.4 中継接続自動手順」と合わせてお試しください。初期設定以外のタイミングにすると、本機や弊社製の現行機種のアクセスが不安定になります。すべての中継障害に有効な設定ではなく、動作保証をするものでもありません。

25: 連結中継スタート・エンドピー「LnK-bP」
設定値 oFF / St / End / S-E (初期値 S-E)

連結中継器(通話モード r2)、連結中継子機(通話モード 6)で通話開始 (応答) するときのアクセス音「ピピ」と、通話終了時に鳴るエンドピー音の動作を切り替えられます。連結中継モードでのエンドピーはこの設定が優先となり、通常のセットモード項目「エンドピー」では変更できません。
S-E : アクセス音、エンドピーの両方が鳴ります。
End : エンドピーのみ鳴ります。
St : アクセス音のみ鳴ります。
oFF : アクセス音、エンドピーは両方とも鳴りません。

※ 連結中継に使用するすべての中継器と子機を同じ設定値にしてください。
※ アクセス音を止めたら、PTT を押してから 2 秒ほど待って話すようにします。(PTT を押してから通話できるようになるまでのタイミングが分からなくなります。押してすぐ話すと、長めの頭切れが起こります。)

26: 同時通話ループ「AFLooP」
設定値 oFF / on (初期値 oFF)

同時通話(通話モード 2)で設定すると、通話中の二人の会話を第三者がモニターできます。
3 人以上で、任意の人同士で同時通話をするときは ON にしてください。2 名だけで使うとき、この機能を ON にすると自分の送信中の声が聞こえます。(自声モニター機能)
※ ３/４者通話は自動でループ状態になります。

27: スケルチレベル「SqL」
設定値 0～5 (初期値 3)

FM 電波特有の、通話が無いときに聞こえる「ザー音」(ホワイトノイズ) を消す「スケルチ」の調整です。工場で標準的なレベルに調整してありますが、ノイズが強い環境などで、通話していない時にカサカサと音が出る場合にレベルを上げます。上げ過ぎると弱い信号も消してしまうため、通話距離が短くなったと感じられることがあります。逆にノイズが低い環境では、レベルを低めに設定することで弱めの信号でも受信しやすくなる場合があります。レベルをゼロにすると、常に「ザー」というノイズが聞こえるようになります。
参考) グループトーク機能設定時はレベルをゼロにしてもホワイトノイズは聞こえません。「ノイズ対策にもなる」とグループトークをお使いいただくよう強く推奨しているのはこのためです。

28: キーロックするまでの時間「Loc」
設定値 1～3 秒 (初期値 2 秒)

指定のキーを 2 秒押すとキーロックが掛かりますが、このタイミングを 1～3 秒の間で変更できます。

※キーロックは[FUNC]キー長押しの「簡易」と、[FUNC]と[SET] キー長押しの「通常」の 2 種類があります。

29: 電池電圧表示「(数字)」

お使いのバッテリーパックのおよその電圧を常に数字で表示します。バッテリーが切れそうなときの数字を覚えておけば、バッテリー残量の詳しい目安になります。(テスターのような精度ではありません、あくまで目安の数値です。) バッテリーが入っていないときは「no bAtt」、充電中は「CHArGE」、充電が完了すると「FuLL」が表示されます。

※電圧以外の表示が更新されるまで、最長約10秒かかる場合があります。

※待ち受け時の充電とバッテリーの状態表示は下記をご参照ください。弊社の従来製品とは異なる表示になっています。
充電中 : ディスプレイ右上に電池マークが点滅、LEDランプが青色点灯
充電完了 : ディスプレイ右上に電池マークが点灯、LEDランプが青色点灯
バッテリーで駆動中 : ディスプレイ右上に電池マークが点灯、LEDランプが青色点灯
バッテリー残量低下 : ディスプレイ右上に電池マークが点灯、LEDランプが青色点滅
バッテリー無し (ACアダプターで駆動時) : 電池マークは点灯せず、LEDランプが青色点灯

30: マイクゲイン調整「m-GAin」

設定値 1～7 (初期値4)

通話時のくせ (声量、マイクと口の間の距離…) やアクセサリーマイクのゲインなどの都合で、人によってトランシーバーに入る声量は異なります。このため、音が小さい (話す声が小さい＝レベルを大きくする)、音が歪む (声が大きい＝レベルを小さくする) 等が調整できます。適当に設定するとかえって音が悪くなるので、しっかり通話テストをしてからお使いください。

31: バッテリーセーブ「bS」

設定値 oFF / on (初期値on)

一部の無線機モード(モード1～6)でのバッテリー消費を最小にするバッテリーセーブ機能は、僅かですが通話の始めの部分が途切れる原因の一つになります。これを少しでも軽減する必要がある特殊用途向けに設けた項目です。バッテリーの消費が早くなるため、通常の用途では変更しないでください。

32: デュアルオペレーション再開時間「dUAL-t」

設定値 1～5 (初期値5秒)

デュアルオペレーションモードで通話が終了したあと、交互受信 (スキャン) を再開するまでの時間です。初期値は5秒ですが、運用の仕方によっては早い方が便利な時もあります。ニーズに合わせて変更してください。

33: オプション使用時のPTT/マイク選択「micPtt」

設定値 ALL／oUt／oFF／St1～St5／no (初期値ALL)

オプションのイヤホンマイク、スピーカーマイク、ヘッドセットの使用時、本体とオプションの[PTT]キーを押したときに、どのマイクを有効にするか選択できます。運用スタイルに合わせて変更してください。
「ALL」「oUt」「oFF」は弊社製4極1軸ねじ込みプラグを採用するトランシーバーと同じ動作です。

設定値	本体の[PTT]キーを押した時に有効なマイク	オプションの[PTT]キーを押した時に有効なマイク
ALL	本体とオプション両方	オプションのみ
oUt	オプションのみ	オプションのみ
oFF	送信しません	オプションのみ
St1	送信しません	本体とオプション両方
St2	オプションのみ	送信しません
St3	本体とオプション両方	送信しません
St4	本体とオプション両方	本体とオプション両方
St5	オプションのみ	本体とオプション両方
no	送信しません	送信しません

【重要：スピーカーマイク使用時の制限】※仕様上の理由で、改造はできません。異常ではありません。
1：スピーカーマイク使用時、本体のPTTキーを押しても電波が送信されるだけで、スピーカーマイクに向かって話す声は送信されません。設定項目に関わらず、スピーカーマイクのPTTを押して話してください。
2：PTTホールドは使えません。どちらのPTTキーを押してもスピーカーマイクのマイクは動作しません。

34: オプション使用時のスピーカー選択「SPKoPE」

設定値 oUt／ins／ALL（初期値 oUt）

別売のイヤホンやスピーカーマイク等を接続して使用する際に、本体やオプションのスピーカー、イヤホンの有効／無効を選択できます。運用スタイルに合わせて変更してください。「oUt」は弊社製４極１軸ねじ込みプラグを採用するトランシーバーと同じ動作になります。

設定値	オプション使用時の動作するスピーカー（イヤホン）	備考
oUt	オプションのスピーカー（イヤホン）のみ動作	弊社製の４極１軸ねじ込み式のトランシーバーと同じ動作
ins	本体の内蔵のスピーカーのみ動作	
ALL	両方のスピーカー（イヤホン）が動作	

ご注意：

・[ALL]設定にすると、仕様上の理由で初期設定より大きい音が鳴ります。大きな音で耳を痛める可能性がありますので十分にご注意ください。特にイヤホン使用時、音量の上げすぎにご注意ください。

35: イヤホン断線検知「EAr-C」

設定値 oFF / on（初期値 on）

本体に接続したイヤホンやイヤホンマイクのケーブル断線を検知する機能です。ON に設定すると起動時に検知動作を行い、断線していると判断すれば 10 秒間、［EAr-nG］表示と内蔵スピーカーのアラーム音でお知らせします。通常セットモードの「No.17 サウンド」設定を「Gdc」または「ALL」に設定していると、アラームの代わりに「イヤホンが断線しています」というガイダンス音声でお知らせします。

36: 緊急通報時間「EmG-t」

設定値 10～60（初期値 10 秒）

緊急通報のアラーム鳴動時間と送信時間は 10 秒に初期設定されていますが、10 秒単位（最大 60 秒）で長くできます。

※通常セットモードの「No.17 サウンド」設定を「Gdc」または「ALL」に設定していると、「異常が発生しました」というガイダンス音声が 2 回目鳴動します。この回数は固定のため、変更することはできません。

37: 秘話通信周波数「Scr-Fq」

設定値 27～34（初期値 34：3.4KHｚ）

秘話設定のコード（正確には周波数ですが）を変えて、異なる秘話グループを作れます。変更するときは、通話したいグループ全員の設定を同じに揃えてください。

38: 秘話エンファシス「EmPHA」

設定値 oFF / on（初期値 on）

弊社製、他社製に限らず特定小電力トランシーバーの秘話通話は機種によって相性があり、音声が聞き取りづらい場合があります。聞き取りづらいと感じたときに、この設定を切り替えると改善される場合がありますが、動作を保証するものではありません。通常は初期値でお使いください。

39: グループトークの種類切り替え「GrouP」

設定値 ton／Cd1／Cd2（初期値 ton）

本機のグループトークは一般的な番号方式（トーンスケルチ）の他、DCS（デジタルコードスケルチ）に切り替えることができます。グループ種類切り替えを Cd1、Cd2 に設定し、通常のトーンスケルチと同様に通常画面で[SET]キーを押すことで DCS 番号を設定することができます。番号変更の操作はトーンスケルチと同様に、[FUNC]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押します。通話グループ全員に同じ設定をします。

Cd1:01～83 の 83 通りのコード番号から選択できます。運用時はチャンネルと 2 桁の DCS 番号を表示します。

Cd2：Cd017～Cd754 の 108 通りのコードから選択できます。運用時はチャンネルと Cd を表示、[FUNC]キーを短く押すと Cd と 3 桁の DCS 番号を確認できます。[FUNC]キーを長く押しているとキーロック操作になるのでご注意ください。

※DCS の設定が有効な通話モードは通話モード r1、1、5、7 です。それ以外のモードでは決められたチャンネルグループで動作するため設定することはできません。また、半複信中継子機(通話モード 5)のときのリモコン設定で DCS を設定していると正常にリモコン動作できません。DCS を設定して中継動作するには

中継器本体を操作してください。

40: 減電池アラーム時間「bAtt-C」

設定値 oFF / 5～60 秒（初期値 oFF）

LED ランプの減電池表示（青色点滅）とともに設定時間ごとに 1 回、バッテリーが減っていることをアラーム音でもお知らせできます。音を鳴らす電力が消費されるため、アラーム間隔を短く設定するほど早くバッテリーが切れます。通常セットモードの「No.17 サウンド」設定が「Gdc」または「ALL」に設定していると「充電をしてください」というガイダンス音声でお知らせします。

41: VOX 送信持続時間「vod-t」

設定値 01～30（初期値 10：1.0 秒）

VOX で送信したとき、音声が途切れても初期値では 1 秒間送信状態を保持するので、短い息継ぎをしても途切れません。この時間を 0.1 秒～3.0 秒に変更できます。送受信の切り替えをテキパキと行いたいときに、設定を短めにすると使い勝手が向上しますが、黙るとすぐ送信が落ちることもあり、十分に動作確認をしてからお使いください。

42: チャンネル表示変更・非表示「CHdiSP」

設定値 AL / noL / oFF（初期値 AL）

弊社製品のチャンネル表示は L01～L09、b01～b11 です。チャンネル表示設定を noL に変更することで 01～20 表示に変更することができます。他社製で、これに近い表示をしている機種のチャンネルに合わせやすくします。

AL	noL
b01～b11	01～11
L01～L09	12～20
b12～b29（中継）	01～18（中継）
L10～L18（中継）	19～27（中継）

OFF を選ぶとチャンネルを非表示（－－－－－－）にでき、別のユーザーからどのチャンネルで通話しているか見られずに済みます。非表示にしているときはチャンネルとグループ設定の変更はできません。
再設定する場合はチャンネル表示を AL または noL にしてください。

43: グループトーク判別精度「mG-ton」

設定値 1～5（初期値 2）

・他社製や弊社製の旧型機と混用すると、グループトークができないことあります。最新の部品を採用する本機はグループトーク信号の読み取り精度が非常にシビアで、少しでもズレた信号には反応しないことから起こる「相性問題」です。
・この設定を変更する前に、相性問題が起きにくい 10 番～37 番の間で全体が動作するグループトーク番号を探してみてください。どうしても上手くいかないときだけ、判定精度をわざと甘くするこの項目をお試しください。1 が最も厳しく、5 が甘くなります。甘くし過ぎると近い番号のグループ信号でもスケルチが開くことがあり、テールノイズキャンセル機能も働かなくなるので、スケルチが切れるときの「ザ！」ノイズが聞こえます。初期値の 2 は、かなりシビアに判定します。

44: マイク AGC 切り替え「AGC」

設定値 oFF / SL / FS(初期値 SL)

マイクに大きな声が入った場合、通話音声が歪むことがあります。この歪みを緩和するのが AGC（自動ゲイン調整）で、大きな声を検知したときにゆっくり緩和させる低速「SL」と瞬時に緩和させる高速「FS」の 2 種類から選べます。他社製や旧機種と混用する場合、通話品質の相性問題を解決できることがありますが、逆に音が悪くなることもあります。複数の機種が混在するときは全部の機種で音質を確認してください。

45: AGC ターゲットレベル調整「AGC-tG」

設定値 03～24（初期値 06）

マイク AGC 設定を入れたときに、歪みを緩和させる音量のポイントを調整することができます。
設定する数値を小さくすることで、より大きい声のときの歪みを緩和させます。逆に数値を大きくすると小さい声の歪みを緩和することができますが、相手に自分の声が小さく聞こえます。これも前項同様、受信側の機種との相性も含めて、下手にいじると逆に送信音を悪くすることがあるので必ず実験してからご使用ください。

46: テールノイズキャンセル「tAiLnC」

設定値 oFF / on (初期値 on)

グループトーク機能を入れていなくても、通話終了時に受信側から聞こえるテールノイズ（受信から待ち受けになるときの「ザ！」という短いノイズ音）を除去する「テールノイズキャンセル機能」のオンオフです。テールノイズキャンセル機能は送信側と受信側の両方が有効なときのみ動作するので、この機能が入っていない無線機と通話すると設定にかかわらずテールノイズは聞こえてしまいます。弊社製の対応機種どうしで使う場合、初期値を変える必要はありません。

47: 減電池スリープ「bt-SLP」

設定値 oFF / on (初期値 on)

バッテリーパック使用時、適正な充電をしないと起きる過放電はバッテリーパックの劣化や充電不良の原因になります。これを防ぐためバッテリーの電圧が一定レベルまで低下すると、初期値の ON では自動的にスリープ（省電力状態）に切り替わります。OFF にするとバッテリーを最後まで使い切ることができますが、大きな差ではありません。特殊な理由が無ければ ON でお使いください。

※いずれの設定でも待機電流は発生するので、充電できる環境になったらすぐに充電してください。
　バッテリーパックを使わないときは本体から取りだして、涼しい乾いた直射日光が当たらない場所に保管してください。満充電でも放電でもない、５０％程度が保存に理想的な充電状態です。

48: お願いコール「PLSCAL」

設定値 oFF／on／1／5／10／onC／1C／5C／10C (初期値 oFF)

半複信中継器(通話モード r1)や交互通話(通話モード 1)で通話中、グループトーク番号が不一致やグループ番号無しの電波（混信）を 5 秒以上受信すると、キャリアセンスが終わって送信できるようになったらすぐに、その相手にチャンネルの変更を促すガイダンスを送信できます。あらかじめ空きチャンネルをスキャンさせ、ガイダンスで変更に適したチャンネル番号をお知らせしたり、お知らせする頻度を選んだりできます。設定内容は以下の通りです。

設定値	お知らせの間隔	空きチャンネルのお知らせ
on	5 秒以上受信するたびにお知らせ	しない
1	お知らせしてから 1 分間はお知らせしない（以下、停止）	しない
5	お知らせしてから 5 分間は停止	しない
10	お知らせしてから 10 分間は停止	しない
onC	5 秒以上受信するたびにお知らせ	する
1C	お知らせしてから 1 分間は停止	する
5C	お知らせしてから 5 分間は停止	する
10C	お知らせしてから 10 分間は停止	する

※必ずグループトーク機能を使って通話してください。
※本機のグループトークを OFF、または DCS に設定していた場合「お願いコール」は動作しません。本機も DCS は採用していますが、仕様上の理由から相手にこちらのメッセージを伝えることはできません。

お知らせするガイダンス内容は以下の通りです。

「空きチャンネルのお知らせ」無し：
→「このチャンネルは混み合っています。他のチャンネルへの変更をお勧めします。」

「空きチャンネルのお知らせ」有り：
→「このチャンネルは混み合っています。チャンネル〇〇〇への変更をお勧めします」
（ガイダンスのチャンネル番号は、拡張セットモードの「No.42 チャンネル表示設定」に合わせた内容でお知らせします。初期設定であれば「ｂ０１」のように、数字だけに設定されていれば「01」のようにガイドします。）

49: 特殊キーロック「Loc-SP」

設定値 OFF／ON (初期値 oFF)

DJ-P113R は中継器モードでも受信音声のボリュームが変更でき、[PTT]キーで送信することができます。
これらの機能を使わず、第三者が触れられるような環境に設置するときは、この項目で特殊キーロックを掛け、キーロック解除以外の操作を禁止しておくことをお勧めします。受信音量や[PTT]操作はできなくなります。

この設定を ON にすると、 [SET]キーと[FUNC]キーの両方を長押しする通常キーロックが「LoC-2」から「LoC-SP」に変わり、特殊キーロックが有効になります。同じ操作を繰り返すと解除できます。

※この設定と同時に、拡張セットモードの「No.28 キーロック時間」を長くすることで、一層いたずらや誤操作を防ぐことができます。

[セットモード拡張方法]

1：キーロックを掛けます。(2 つあるうちの、どちらの方法でも構いません。)
2：[SET]キーを 5 回連続で押します。10 秒以内に 5 回押さないと有効になりません。
　キー操作が有効であれば「ピピッ」とビープ音が鳴ります。
3：自動的にキーロックが解除されます。
4：セットモードに入るとすべてのメニューが追加されています。通常のセットモードと同様に操作します。
＊上記 1～4 の操作を繰り返すと、変更した値を保存して拡張メニューを隠すことができます。

[拡張項目のリセット]

＊ チャンネルや通常のセットモードも含んで、全てを工場出荷状態まで初期化するには、アダプターを抜いて電源を切った後[▽]、[△]、[FUNC]キーの 3 つ全てを押したままでアダプターを挿して電源を入れます。画面が全点灯したら指を離します。「r1b L10」で起動したら工場出荷状態です。

＊ 説明書に記載のリセット（FUNC キーを押しながら電源を入れる）では拡張セットモードは閉じず、設定した値も初期化されません。拡張セットモード以外の設定だけが工場出荷状態に戻ります。

以上

アルインコ（株）電子事業部